

さんしんニュース

2015

初春号

テーマ《考動》



- 新年のご挨拶
- さんしんサポートセンター「夢」の考動
- 地域活性化への考動 ～修善寺温泉～
- さんしん地域経営研究会 活動報告
- ビジネスマッチング開催のご報告 ●「夢企業大賞」始動



平成27年 新年のご挨拶



新年明けましておめでとうございます。

平成27年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。日頃の三島信用金庫へのご支援に厚く御礼申し上げます。

平成26年度の日本経済は、4月の消費増税から始まり、夏場の台風や豪雨などの天候不順、物価の上昇、10月の追加金融緩和、急激な円安と株高の進行、衆議院の解散・選挙等と、変動の著しい一年となりました。増税後の反動減は長引き、総務省が11月に発表した10月の2人以上世帯の家計調査によると、物価変動を除いた実質で消費支出は前年同月比4.0%減となり、4月以降7カ月連続のマイナスとなりました。物価上昇に対し賃上げが追いつかず、実質的な賃金は低下しており、消費者の節約志向は依然として強く、今後も消費の低迷が長引くことが懸念されます。また円安の進行は日本の輸出産業に有利な一方、輸入する原材料価格の上昇を招くだけに内需型の中小企業への悪影響が懸念されます。加えてグローバル化の進展による海外企業との競合の激化や国内の人口減少による需要の縮小といった国内経済・社会構造が変化する中で、とりわけ地域の企業においては今後も厳しい事業環境が予想されていることから、地域金融機関として、地域企業への経営支援の重要性はさらに高まるものと考えております。

地域の情勢は、少子高齢化・人口減少で過疎化が一層進み、地域経済の縮小への懸念が一層強いものとなっております。このような中、政府は9月に地方創生を旗印に「まち・ひと・しごと創生本部」を新設



理事長 稲田精治

し、その基本方針の冒頭では「地方が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服する」と謳われております。「共存同栄」を理念とする当金庫にとって、地方創生の一役を担うためにも、『地域のホームドクター』としてお客さま支援体制を強化し、地域活性化戦略をたてる他機関との連携を図ることで、地域密着型金融を一層推進する所存です。そのため、既存のサポートメニューの向上と新しい取組みを積極的に行ってまいりました。例を挙げますと、平成26年4月には東海財務局より取引先の海外子会社に直接融資するための認可を取得しました。当金庫の取引先のうち70～80社が中国やタイ、ベトナムなどアジアを中心に工場や事務所を設置



され、以前から資金需要の柔軟な対応が求められておりました。認可取得を契機に、外部機関と協力し直接的に資金提供できる態勢を整えております。2月と9月には、企業経営者と企業OB等の高度な専門知識を持つ人材(新現役)のマッチングとして「新現役交流会」を開催しました。これは多様化・高度化する経営課題に対し企業に深く入り込み企業と共に活動をし、長期の視点にたち経営課題を解決するための取組みです。成果として、実際に新現役と顧問契約を結び経営改善に取り組まれる企業も出てきております。11月には「農商工連携・6次産業化支援 富士山・東北海道広域ビジネス マッチング『食&農』こだわりの逸品展示会2014」を開催し、静岡・山梨・東京・東北海道の21の信用金庫が協力した、広域の地域間連携となりました。これらの事業を通し、地域金融機関は多くの企業情報・地域情報を持つことから、「情報の仲介役」という役割を担うべきという意識がより高まっております。当金庫内の取組みとしては、「情報提供シート」を導入し地域のコミュニティ活動で得たニーズへの素早い対応と、Facebookやロビーテレビの活用による情報の発信を行っております。



▲ 2014年11月 帯広信用金庫と「大規模災害時等における取引先の業務継続支援に係る協定書」を締結

11月には帯広信用金庫と「大規模災害時等における取引先の業務継続支援に係る協定書」を締結しました。帯広信用金庫または当金庫の取引先が大規模災害に被災した場合、一刻も早い取引先の業務の復興に向けて、両信用金庫相互が組織的に協力や支援を行うことを目的としております。富士山の裾野に居を構

える当金庫にとって、自然災害への事前の対応が必須であることを改めて認識しました。

当金庫では、信用金庫の「新しいかたち」を目指し、



▲ 2014年11月17日 「桜サク支店」オープン式典

従来からの仕組みの見直しと、新しい発想を積極的に採用しております。働きがいのある職場づくりを目指し、「ポジティブ・アクション」の推進として女性職員をメインとした「桜サク支店」を開設し、ワーク・ライフ・バランスの質的向上として育児休暇取得を推奨しています。「特例子会社 さんしんハートフル株式会社」では一層の事業拡大により、障がい者雇用に率先的な取組みを示しております。また、ペーパーレス・キャッシュレス・印鑑レス等ITを駆使した合理化によるスピーディーな対応と、「タッチ伝票」を軸とした「すまいるカウンター」の取り扱い店舗を増やすことで、お客さまの利便性の向上に向けた取組みを推進しております。

平成27年も「地方創生」「女性の活躍推進」「地域企業の国際化」「IT化」などのキーワードがますます重要性を帯びてくるでしょう。当金庫においても、5年10年先を展望したビジネスモデルの確立とともに、収益力の強化やリスク管理の高度化、人材の育成と意識改革を強く進める所存でございます。地域金融機関として静岡県東部と伊豆半島の地域経済とともに生きていることを肝に銘じ、地域活性化に一層取り組んでまいりますので、引続きご協力をお願いいたします。結びに、本年の皆さまのご活躍をお祈り申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。



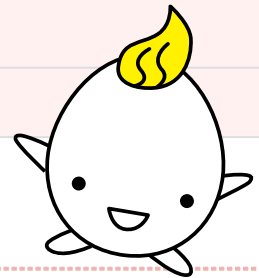
「富士山・東北海道 広域ビジネスマッチング『食&農』こだわりの逸品展示会2014」開催のご報告

平成26年11月19日、沼津駅北口のプラサ ヴェルデ（キラメッセぬまづ）で、『食&農』こだわりの逸品展示会2014を開催しました。来場者数8,000人、商談数1,319件と多くのバイヤー・一般消費者にご来場いただきました。出展者からは資源・商品のPR、人脈づくりも含めたビジネスチャンスの拡大と、物販による直接的な成果の獲得に繋がったという声を多数いただき、大盛況となりました。



◀ 当日、会場は多くのバイヤー・来場者様で賑わいました。

名 称	農商工連携・6次産業化支援 「富士山・東北海道 広域ビジネスマッチング『食&農』こだわりの逸品展示会2014」	
日 時	平成26年11月19日(水) 10:00～17:00	
会 場	プラサ ヴェルデ（キラメッセぬまづ） （沼津市大手町1-1-4）	
来場者人数	8,000人	バイヤー：1,200人 一般来場者：6,800人
出展団体数	192社・団体	
商 談 数	1,319件	



第5回「夢企業大賞」始動！

平成26年12月15日、静岡県信用保証協会と「夢企業大賞への業務連携に関する覚書調印式」を行いました。これは受賞者に対し信用保証の提供や専門家派遣費用補助、相談体制の構築、ビジネスマッチングの斡旋など、企業の事業発展を支援する体制を強化することを目的としています。第5回「夢企業大賞」の公募開始については、詳細が決定次第ホームページやチラシ等でご案内します。皆様のご応募をお待ちしております。



※夢企業大賞とは…三島信用金庫の創立100周年事業として創設。これまで4回開催し、応募総数は述べ233件と多くの夢あるビジネスプランが寄せられてきました。

桜サク支店オープン！

平成26年11月17日、長泉町桜堤に「桜サク支店」がオープンしました。平成16年2月の函南西支店以来、10年振りの新規店舗開設（合併後初の出店）となります。桜サク支店の特徴は当座預金・法人融資は行わず、個人のお客様に特化した点です。店名には地名である桜堤の「桜」を用い、入学や就職、結婚、退職等ライフイベント毎、お客様に気軽に相談・利用いただける店舗を目指します。また立地はコンビニエンスストアの空き店舗をリニューアルし、女性職員が中心の店舗とする等、様々な工夫を凝らした新しいタイプの店舗です。



桜サク支店

開 店 平成26年11月17日
住 所 駿東郡長泉町桜堤1-1-12
T E L 055-988-3934

サポートセンター「夢」の考動 ～経営課題解決のお手伝い～



平成22年、さんしんサポートセンター夢は、地域の皆様からの「資産や相続、ローン、老後のこと」「経営を行っていく上でのアドバイスが欲しい」等のご相談と一緒に解決するために開設され、これまで多くのご相談をいただけてきました。今号では経営支援に着目し、地域企業の皆様に今何が求められているのかを報告します。

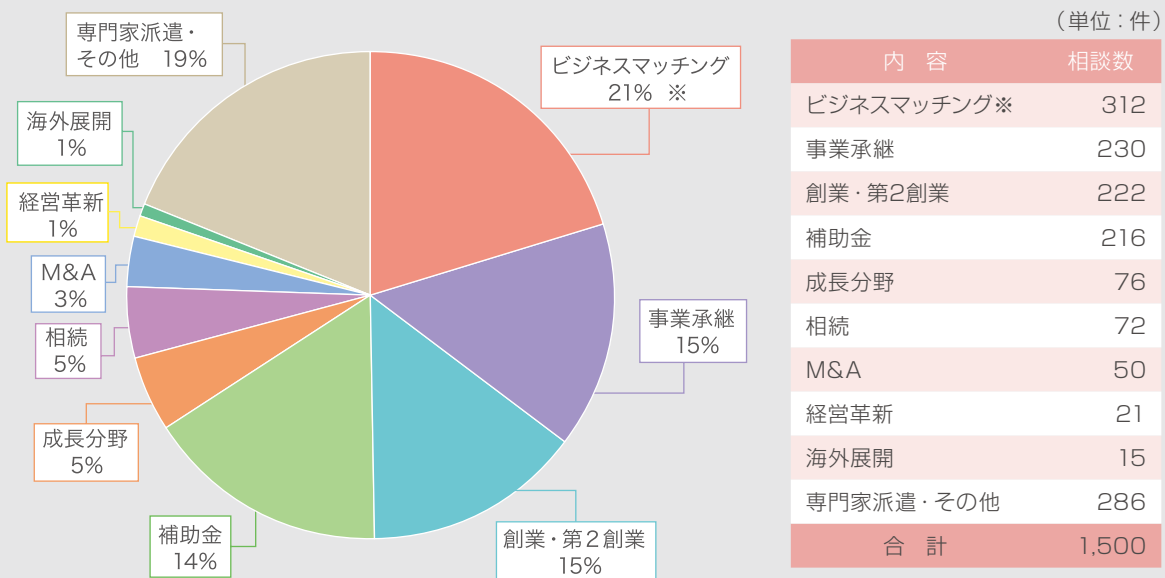
平成26年度の実績

平成26年度に取引先から寄せられた経営課題に関するご相談は、12月4日時点で1,500件にのぼります。これは、当金庫本支店に寄せられ、その後サポート営業部に情報提供のあった数字のため一部に過ぎませんが、地域の課題の指標として参考になるかと思われます。内訳を見ると、「事業承継」と「ビジネスマッチング」に関するご相談が最も多く、続いて「専門家派遣」、「創業・第2創業」、「補助金」となっております。地域社会の抱える少子高齢化・人口減少の課題が相談件数にも表れていると推測されます。これらに対し当金庫では専担者を配置し対応するとともに、各分野のセミナーを開催し情報の提供を行っております。



▲ サポートセンター「夢」のスタッフ

平成26年度 相談件数 (12月現在)



※ 「富士山・東北海道広域ビジネスマッチング『食&農』こだわりの逸品展示会2014」出展者数含む

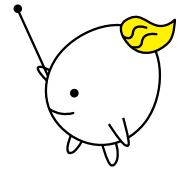
続いて、ご相談の多い「事業承継」「創業・第2創業」と、今後ますます注目される「成長分野」について見ていきます。

事業承継・相続・M&A

取引先事業者に対する経営アドバイスのなかでも、後継者確保と事業承継は喫緊のテーマです。少子高齢化の進展で地方の人口減少はより顕著になると考えられ、地域にとって資産と事業の承継は大きな課題となっています。深刻化している廃業の問題は、地域経済にとっても重要な問題であり、そのなかでもとりわけ「後継者問題に悩む」事業所の相談にのり雇用を守ることが、地域の未来を創り、地域金融機関としての使命であると、皆様のご相談から感じております。

こうした廃業の現実に信用金庫としてどのような対応を求められるかという点、廃業に関する相談は非常にデリケートで、センシティブであり、信頼関係を構築できなければ気軽に応じることはできません。引退を意識した経営者に対し、まず最初に「後継者をどのようにするか?」を考えていただ

くようアドバイスします。身内から、社内から、または、事業売却も選択肢として視野に入れることをアドバイスします。というのは、「廃業はやむを得ない」と考える事業者は、事業承継を検討することなく、廃業を決めている方も多いのが現実です。廃業は事業者にとって最終的な選択肢です。事業承継の方法は個々の事業者によって何が一番適切であるのかはわかりません。したがって事業者の将来的な可能性を把握して、より良い承継につなげるために当金庫の専門スタッフと相談し、今後の方向性について考えて頂ければと感じております。



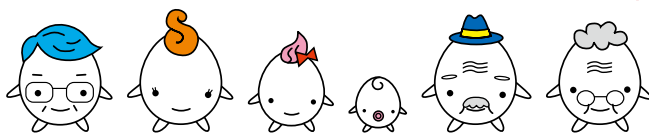
創業・第2創業について

これまで当金庫営業エリアの事業者を対象としたビジネスプランコンテスト「夢企業大賞」を実施してきました。昨年は、ルーキー部門を創設し、創業者に関する支援の強化を図りました。これは地域経済の発展には、ダイナミズムを欠かすことができないからです。創業が成功するヒントとして、その企業の技術を他のどのような技術やサービスと組み合わせるかが鍵となります。より可能性のある組み合わせを探る努力が求められるため、結びつけるコーディネート機能をさらに充実させていきたいと考えております。また創業支援は創業後のフォローも重要と考え、シリーズで創業まもない経営者及び創業希望者を応援する講座を開催します。

成長分野への取組について

政府の打ち出した新成長戦略への対応として、成長分野への積極的な取組みが求められております。当金庫では「医療・介護・農業・環境」に力を入れてきましたが、その他「医療機器」「海外展開」等の成長産業・成長市場への進出を目指す企業の支援にも力を入れております。また、県東部地域ではファルマバレープロジェクトが推進されていますが、当金庫では平成24年より職員を派遣し、成長産業の推進に参画しています。

その他、「ものづくり補助金」などに代表される国の支援策を知ってもらうために、取引先向けのセミナーを開催し、申請に必要な事業計画書の作成をサポートしてきました。こうした取引先の中小企業の経営力を高める取組みを通じ、設備投資の需要を喚起し、地域経済活性化のきっかけになることを期待しています。



【記:サポート営業部長 高嶋正芳】



地域活性化への考動 ～修善寺温泉～



平成26年11月、昨年の「和食」に続き、「和紙 日本の手漉(てすき) 和紙技術」が無形文化遺産に登録決定しました。また昨年度より増加傾向にある訪日外国人旅行者の目的には、「日本食を食べること」、「ショッピング」、「自然・景勝地観光」、「温泉入浴」が挙げられます。今、国内外問わず日本の文化・歴史に対し注目が集まっています。そこで、伊豆半島で最も歴史があり日本百名湯に選ばれている温泉「修善寺温泉」について、文化・歴史に触れながら、その“考動”を追っていきます。



「修善寺温泉は古いものと新しいものが融合する街」

一石庵／原 京氏、美也子 氏

修善寺温泉は開湯約1,200年の歴史を持つ、伊豆半島で最も歴史のある温泉です。多くの自然・景勝地・建造物の他、江戸・明治・大正・昭和・平成と街と共に歴史を刻む風情ある木造建築の日本旅館やモダン様式の旅館があり、カフェ・雑貨・飲食店等の新しい店舗が次々と出店し、活気ある温泉街を作り出しています。

この地域が活性化するには、定住人口を増やすことが重要ですが、その為には交流人口の増加が必要と思われます。また、旅行者が教えてくれる「新しい視点」を取り入れることも大切です。ある外国人旅行者が「奥の院までの散策ルートがとても素晴らしい」と絶賛していました。田んぼのある日本の里山風景は、彼らにとって「新しい」「絶景」なのだ改めて気づかされます。自前の着物でいらっしやる方も見かけるようになりました。ご自身がモデルとなって撮影すれば、自分のための写真集ができます。SNSの普及でお客様自身が広報マンとなり、また至らない部分を指摘してくれるアドバイザーとなっています。これらの変化に対し、それぞれの経営者が自分の方針を持ち行動に表すこと、これが修善寺温泉という“街づくり”に大切なことだと思います。

「伊豆一円が一文化圏として、地域の方と観光の方が有機的につながる場になることを期待します」

修禅寺 住職／吉野 真常 氏

住職として修禅寺に来てから6回目の新年を迎えます。ここに来てまず驚いたことは、地域の方々がお寺をととても大切にされていることです。「お寺あつての町、お寺あつての旅館です」とおっしゃっていただき、協力的な街の雰囲気があります。

お寺は修行の場とはいえ、観光と深いつながりがありますから、観光に来られるお客様に対し閉塞的では地域の方々が困ってしまいます。一方で、テーマパークのように世俗化しては、お客様の求めるお寺ではなくなってしまいます。お越しになった方がよく「一歩足を踏み入ると凜とする、襟を正される。」とおっしゃいます。ここにお客様が求める“非日常性”があるのでしょうか。修善寺には歴史ある物・謂れ・街並み等“非日常性”を感じられるものがたくさんあります。これらは本当に素晴らしい文化的財産です。

これからの修善寺を思いますと、やはりこの歴史ある土地や寺を含む文化を守り育てる事がより大切になって行くと思います。修善寺を含む伊豆一円を一文化圏と捉え、地域の方と観光の方が有機的につながる場となるよう協力していければ、より魅力ある地域になると思われます。



「心は、行動となり 行動は、習癖を生む 習癖は、品性を作り 品性は、運命を決する」この言葉を大切にしております」と吉野住職

「インフラの充実により、“修善寺”という地名のブランド化推進を」

柳生の庄 店主／長谷川 卓 氏

当館は、昭和34年東京芝白金に開業した料亭「柳生」から始まり、京懐石を礎とする本格割烹を原点としております。修善寺の里山に創業者が追い求めた日本の風情を見つけ、昭和45年に修善寺温泉旅館「柳生の庄」の開業へと至りました。以来「本格的な日本建築でおいしい日本料理を堪能していただく」をコンセプトにしております。



修善寺は伊豆の中央に位置し、観光資源に富み、インフラ面でも恵まれております。交通面では、首都圏と伊豆を結ぶ特急列車「伊豆踊り子号」に加え、最近では伊豆縦貫道と圏央道の開通により、遠方からも訪れやすい地となりました。しかし、更に認知度を高めるためには、より便利な交通手段の提供が必須です。例えば、三島駅北口から修善寺温泉までのシャトルバスなどが考えられます。また現在の宿泊客数の約3%を占めるインバウンドの、今後の増加にも影響すると思われま。インフラの充実が、修善寺という地名を更に広めるきっかけになると期待します。



「『この地で心と体を癒し元気になってほしい』 おもてなしの心でお迎えしたい」

宙 SORA 渡月荘金龍 女将／原 秀子 氏

明治23年創業「渡月荘金龍」の姉妹宿として、平成16年に和モダンを基調とした旅館としてオープンいたしました。「お客様がこの地で心と体を癒し、元気になり、幸せになるためのお手伝いがしたい」という想いが宙の源でございます。

修善寺は歴史ある建物や風情ある雰囲気があり「伊豆の小京都」と称され、歩いて回れる広さのため、散歩が楽しめる温泉場でもあります。これからの修善寺を思いますと、少子高齢・人口減少により国内ユーザーが減りますから、インバウンドの態勢を整えたいと思っております。大切な事は「日本の文化・歴史をどのようにご提供するのか」だと思っておりますので、当館では、広い土地を生かした「森の庭」で絵の展示やお茶会を企画したり、敷地内にあります「修善寺桂谷八十八ヶ所」の札所を巡る散歩コースをご案内したり、奥の院等の名所をご案内したりしております。背伸びせず、地域の方々とお客様に愛されるよう、「対価に対する価値」をご提供できるよう地道に精進すること、おもてなしの心でお迎えすることが、これからの修善寺につながると思っております。

「滞在型観光のご提案と、より修善寺の魅力の発信を」

株式会社桂川 総支配人／杉森 繁樹 氏

昭和34年開業、以来増改築を繰り返し、修善寺のなかでも規模の大きな旅館として個人・団体のお客様にご利用いただいております。近代的施設の中に和風温泉情緒を感じられるよう、館内施設も充実しております。

修善寺の魅力は「静けさ」「歴史」だとよくお客様から言われます。最近では地域の観光資源の一つとして紅葉の美しさも認知され、平成26年のもみじまつりには多くのお客様がお越しになりました。また海外からの旅行者、中でもアジア系の方々が見られるようになり、団体で来られる場合はツアーとして数時間の滞在、個人の場合は家族連れで宿泊されます。今後は、伊豆縦貫道と圏央道の開通により来訪客の増加を期待しておりますが、一方で修善寺が通過点となってしまうことを懸念しております。そこで、滞在型観光プランの提案が必要と考えます。例えば1日目は観光、2日目は温泉巡りなど、観光資源に加え各旅館の特色が際立つ修善寺には、様々なプランが考えられるでしょう。多種多様な情報を発信し、修善寺へお客様を引き寄せる仕掛けづくりが重要なのではないかと考えております。



さんしん地域経営研究会 活動報告

さんしん3CC 活動報告

◎1年間の活動を振り返って

昨年度は新たなメンバーも増え、会としても多くの新しい試みをおこなった一年間でした。また、会の名称も多くの方々に知っていただくようになり感謝しております。平成27年もより一層実務に役立つ実践的な活動を取り入れながらメンバーと共に勉強していきたいと考えております。

【さんしん3CC会長:株式会社山本食品 山本豊】



▲ 10月18日開催 意見交換会の様子

開催日	活動内容
3月11日	三島信用金庫下田ブロック同友会の合同勉強会にて会長・山本と広報・稲村が講演。
4月16日	3名のゲスト会員を迎え、今年度事業計画、会計報告、3CCメンバー間の意見交換会。
5月26日	3CCメンバー講話「みんなが聞きたい私の話」の開催。担当：(有)アルファ、不二高(株)
7月 3日	フリートークセミナーをさんしんCLUB JISECOREと合同開催。担当：(有)小林金属製版所、(株)小河屋商事、(有)丸芳製作所
8月 2日	3CC役員と三島信用金庫若手支店長との意見交換会の開催。
8月 5日	3CCメンバー講話「みんなが聞きたい私の話」と大社の社みしまにて納涼会の開催。新メンバー2名が担当：(株)フジスポーツ、特定非営利活動法人 優輪会
9月 3日	3CC恒例行事、メンバーの会社訪問。(株)フジスポーツ(柿田川パークレーンズ)を訪問。
9月18日	広報・稲村が三島信用金庫伊東ブロック合同勉強会にて講演。
10月18日	3CCメンバーと三島信用金庫職員との意見交換会開催。
11月25日	1年間の活動発表会合後メンバー忘年会の開催。

さんしん CLUB JISECORE 活動報告

◎定例会報告：座禅体験で自己研鑽

平成26年11月の定例会は、人間禅岳南支部様の熱海の道場での日曜坐禅会に参加させて頂きました。日々日常の中では、会社のこと、仕事のこと、社会のこと、地域のこと、家族のこと、自分のこと・・・等についていろいろ考え、そして行動する時間を過ごしております。そんな日常の中で、行動も思考も止める時間はほぼ皆無であり、余計なことばかりに思考を巡らせてしまい、苦しむ事が多々あります。そこで、坐禅会に参加している会員の提案により、日々苦しめられている自分の思考や感情に流されることなく、自分自身をコントロールする力を高めるトレーニング方法を学ぶことを目的として、1時間ほど坐禅を体験しました。

日常の中では、つつい自分以外の事に気を取られ



てしまいがちになりますが、改めて、自分自身を見つめ直し、自己管理能力を研鑽する機会となりました。また、坐禅の後には、坐禅会の皆様のお話しをお伺いする時間もあり、大変貴重な時間を過ごさせて頂きました。

【株式会社アイ・システム 下山透】